

流鉄交流始発拠点

地域の魅力を市民が発信する駅



01. コンセプト

千葉県流山市流山地区は、市名の由来となった丘や100年以上続く老舗、また新選組隊士として高名な近藤勇の陣屋跡等が残る歴史ある町である。同地には大正期以来、流鉄流山線というローカル線が走り続け、多くの住民や来訪者に利用されてきた。しかし近年では、つくばエクスプレス線の開業により流山おたかの森駅周辺の都市開発が進み、同駅前に大型商業施設や市役所出張所等が建設されたことから、流山地区の来訪者や流鉄流山線利用者は減少し、若者による認知度も年々減少している。

そこで本計画では、流鉄流山駅を中心として、地域住民や来訪者が日常的に利用でき、地域のコミュニティの場となると共に、同鉄道や地域の魅力を身近で感じられる場を計画する。また、現在街おこしを行っている活動団体『machimin』の拠点と合わせて計画することで、歴史あるローカル線を背景に様々なイベントが開催できる施設とする。このことにより、寂れつつあるこの町に新たな賑わいと街づくりの気運が醸成されることを期待する。

02. 千葉県流山市について

千葉県の北東部に位置する流山市は人口204,485人(令和3年11月時点)を持つ。2005年のつくばエクスプレス線開通により都心へのアクセスが良くなったことや流山おおたかの森駅周辺の都市開発により住みやすくなったことで年々人口が増え続けている。この駅周辺の開発は今も進み続けており、令和5年に計画が終わる予定である。



流山市地図



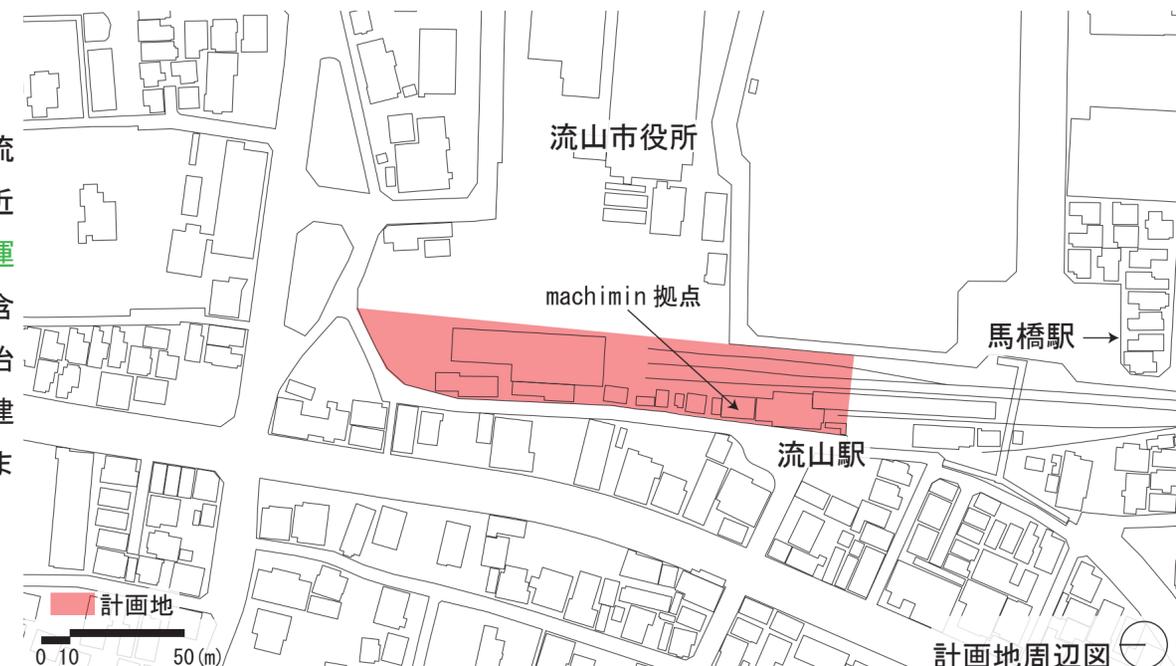
流山おおたかの森駅周辺の様子



流山本町の町並み



現状の計画地を左手に見た様子(左)と流山駅の様子(右)



計画地周辺図

本計画地は流山本町にあり、100年以上の歴史をもつ『流鉄流山線・流山駅』。この町には『白みりん発祥の地』や『新選組近藤勇と土方歳三の別れの地』など数多くの歴史をもつ。水運の中心地だったことから現在の茨城県と埼玉県の一部を含んだ葛飾県の県庁が置かれるほど賑わいを見せていた。明治に入り県名が千葉県になり、県庁の跡地に現在市の役所が建つ。しかし、この町の人口は減少し空き家が増加している。また高齢化が進んでいるため、寂れつつある町になっている。

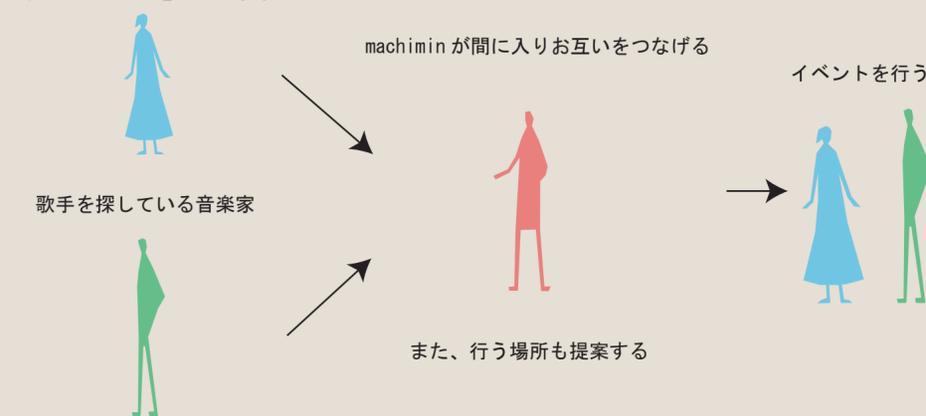
04. machimin について

みりん菓子を開発したり、市民を講師として招き体験教室を開いたりしている。駅前の拠点だけでイベントを行うのではなく、町を利用したイベントも行う。地元の人だけや行政だけ、企業だけでできないことを machimin が間に入りお互いをつなげることで解決に導く「壁を壊して、輪を創る」を目標に掲げている。



駅前 machimin 作業場の外観

町でコンサートをしたい歌手



machimin の目標

05. 本計画について

流鉄流山線流山駅を中心として、地域住民や来訪者が日常的に利用でき、地域のコミュニティの場となると共に、同鉄道や流山市内で進んでいる都市化の特徴を取り入れた古い地域と新しい地域の魅力を間近で感じられる場を計画する。また計画地から生まれる賑わいが町中に広がり、社会に発信できる場を提案する。



建物と建物の間を走行する流鉄流山線

流山市・駅の魅力や特徴を取り入れながら

〈若者・来訪者〉



流山市に住む小・中・高生や来訪者が気軽に訪れる街

〈駅の魅力〉



カラフルな電車や検車庫を身近に感じる場・建物に囲われた走行中の風景

〈都市開発の特徴〉



緑豊かな森の街を目指す流山市の植栽

〈machimin〉の活動拠点を取り入れる

〈machimin の活動〉



体験教室

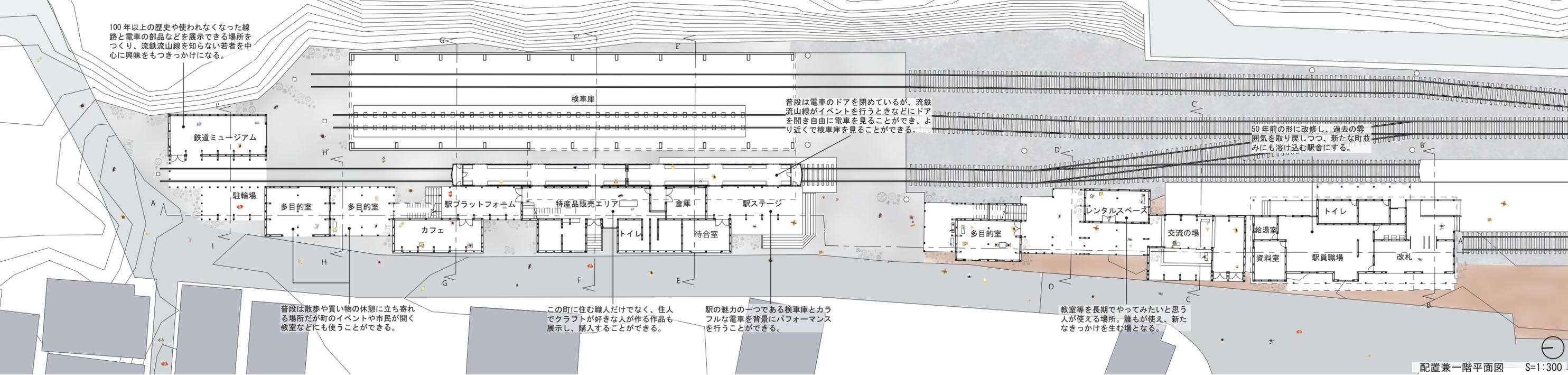


体験教室やパフォーマンスなど様々なイベントを開催する



パフォーマンス

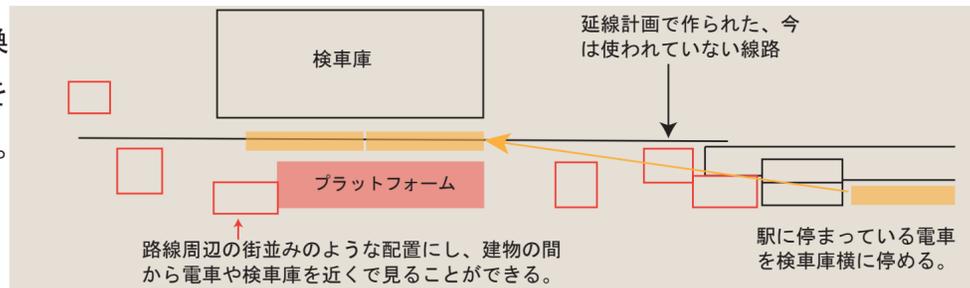
町の歴史と新しさを感じながら市民が主体となって賑わいを生む場になる



06-1. 驛の魅力を間近で感じられる場の始発点

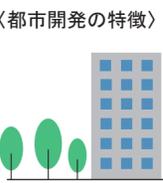


〈駅の魅力〉
同駅には交換待ちをする電車が1台停まっており、この交換は1日に2回程しかなく駅の外からも停まっている様子を見ることができるが横しか見えず、もったいなさを感じる。そこで計画する建物の背景となり電車に乗らなくても近くで見ることができるプラットフォームを新たに造る。

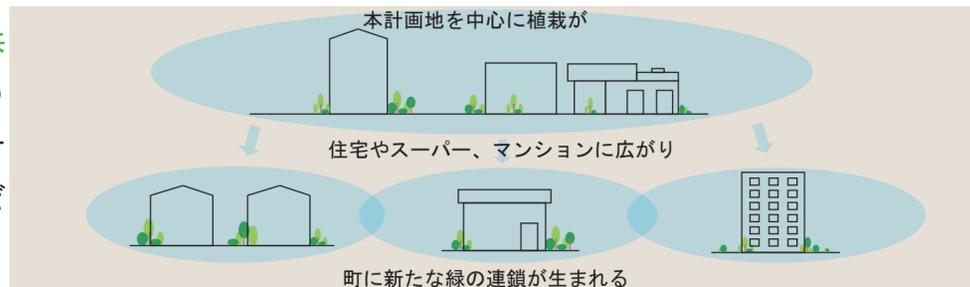


駅ならではのイベント①『検車庫見学』

06-2. 流山本町の緑の始発地点



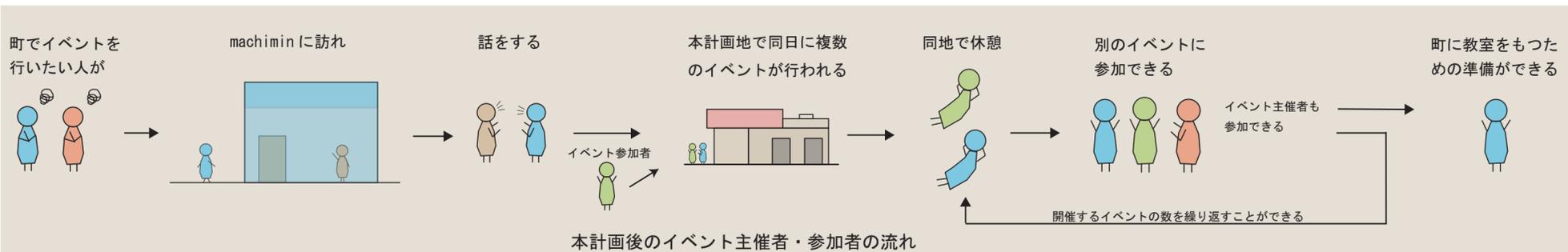
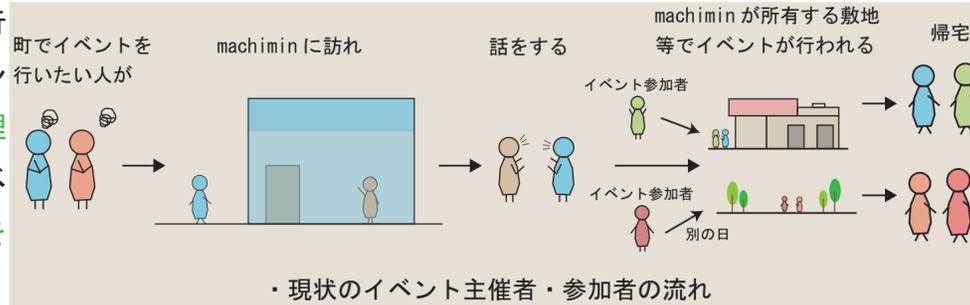
〈都市開発の特徴〉
本計画地のある地区は流山おおたかの森駅のように公共の場に緑を植えることが難しい。また、市野谷の森のような自然保護区が近くにはないためスタート地点もない。そこでスタート地点となる規模の大きい敷地から住宅などの規模の小さい敷地へと続く植物の連鎖を提案する。



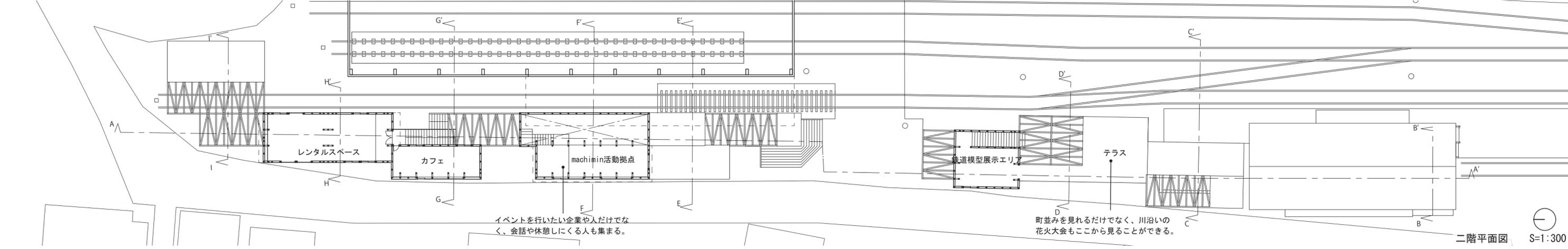
06-3. machimin、市民の活動を広める始発点



〈若者・来訪者〉
machimin拠点は流山市内に4つあり、市内でイベントを行いたい人や企業が相談しに流山駅の拠点に訪れる。イベントは同時に開催していても各場所が離れているため管理上1つしか参加できない。そこで、本計画地に教室やイベントが行えるスペースを複数作り、一箇所でイベントを楽しみ、待ち時間も同敷地でくつろげる場を提供する。



駅プラットフォームの様子 / 住宅規模の建物が実際に走行する町並みを連想させる



07. 植栽植え方

流山市独自の植栽の植え方として『ソデモリ』という考え方がある。これは流山市にある自然保護区に存在する植物を使い街中に小さな森を作り緑のネットワークを更に強く結びつけるものを言う。



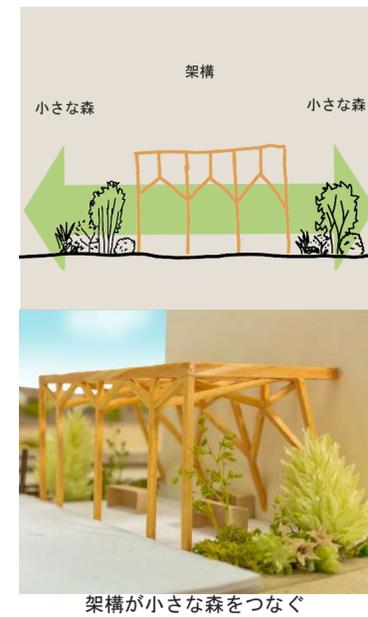
一種類の植物を植えるのではなく、何種類もの植物を組み合わせる。建物と道路の間や高架の脚柱周り等の隙間部分に植えることができ、これらは鳥や虫のすみかになっていることもある。

敷地内の小さな森

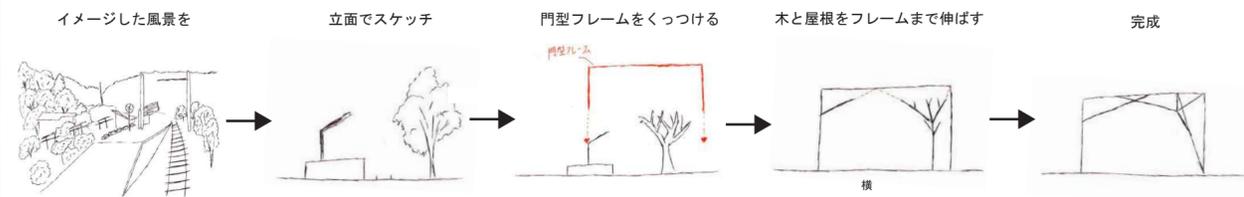
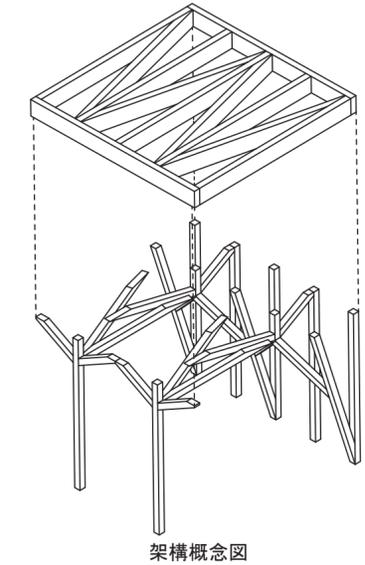
08. 構造の考え方

イメージしたローカル線の風景から構造を考え、流山市が目標に掲げている『都心に一番近い森の街』に溶け込む造りになると考える。

この構造が駅にふさわしい形と敷地内に植える植栽との繋がりをもたせる。魅力ある駅舎と検車庫そして敷地内の建物も魅力のあるものにする事で、この敷地だからこそ見ることができる構造を提案する。



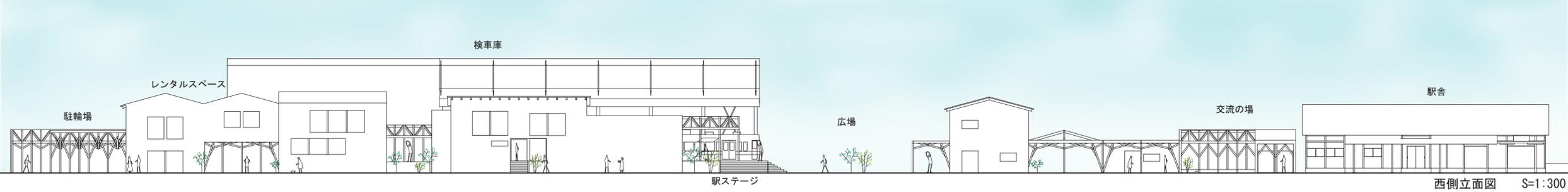
120×120mmの角材を主に利用し、住宅で使用される流通材のみで構成する。



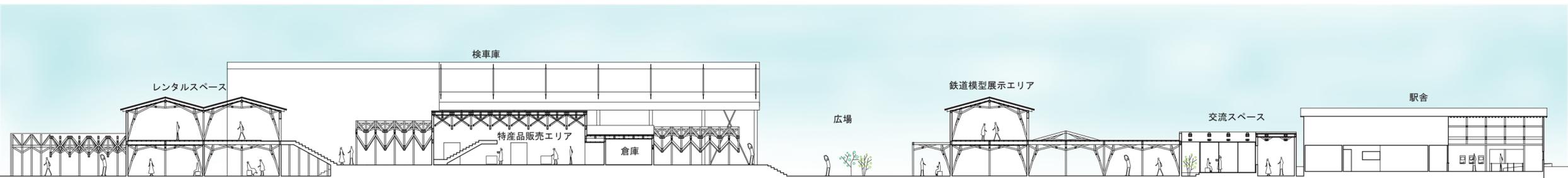
イメージした風景から構造になる変化過程



改修した駅舎 / 100年以上の歴史にふさわしい姿を取り戻す。



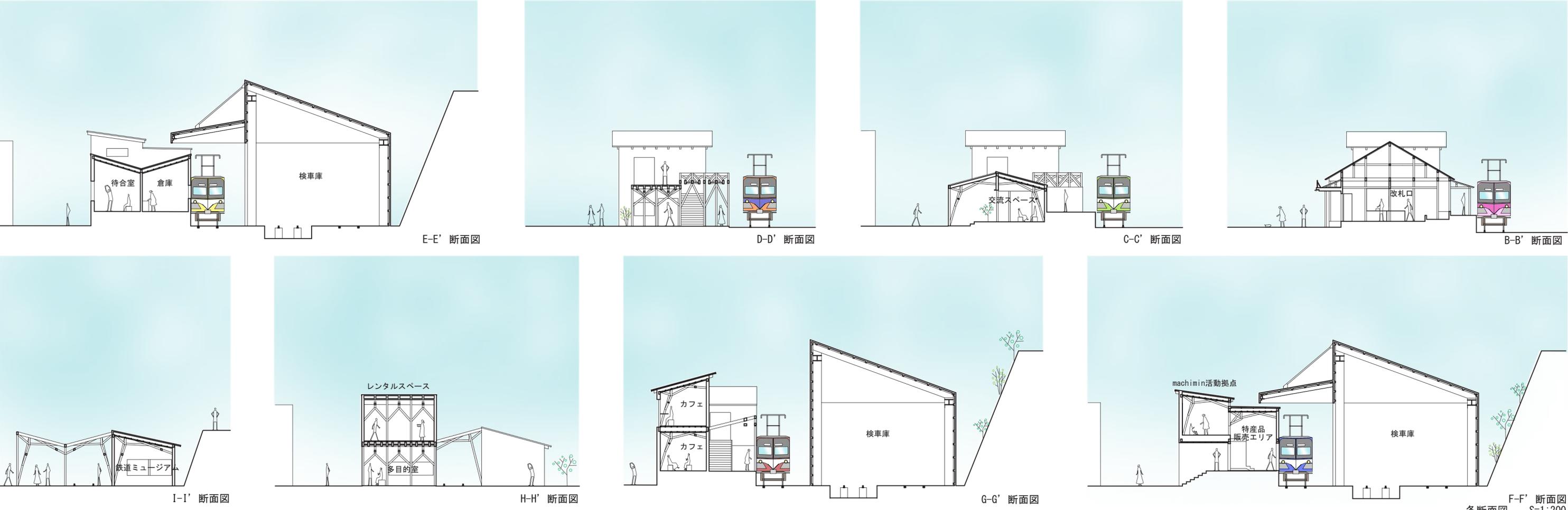
西側立面図 S=1:300



A-A' 断面図 S=1:300



machimin 活動拠点 / イベントを行いたい人と市民の交流が生まれる。



09. 流山本町の未来

本計画を行うことで、この町に教室を開いたり、個人経営のお店が開いたり、増え続けている空き家が徐々に減る。これと同時に空き家を改修しながら緑を植え、森の街を目指す。この社会を回す循環と連鎖が流山本町の賑わいとまちづくりの気運が醸成される。

